

趣味の家電×親孝行のD.I.Y

床の間を至福のシアタールームへ

数ある電化製品の中にデザイン的にイイなと思うものがある。

しかし、なかなか昔の家には馴染まないこともしばしば。

このコラムは、築21年の木造住宅(実家)を家電や照明などを使って自分好みに仕上げていく物語である。

文・写真／ASJ千葉基 イラスト／森由佳里



2016年5月7日、鹿児島県南さつま市笠沙町(通称、野間池と呼ばれる小さい漁村)、父が一人で住む実家へ帰省。父は元・管制官で定年後は母方の実家が営む定置網漁業を手伝っている。1939年生まれの77歳だが、漁師の加勢がまだできるほど元気だ。趣味は音楽鑑賞。クラシック、60年代・70年代の洋楽(ポップ、R&B、ロックなど)をタバコとコーヒーをセットにして聴くのが至福の時らしい。

去年、本誌でも紹介したオンキヨーの天井埋め込みスピーカーに惹かれ、父と話して購入することにした。

問題は、取り付けだ。20年前に家を建てた工務店は、現在は一人で切り盛りしているいわゆる田舎の大工さん。電話するも、別現場をみていて、手が空かないとのこと。さて、どうしたものか。

結果、学生時代に建築をかじった私が取り付けることになった。大阪勤務で2年近く帰省できておらず、正直、罪ほろぼし的な意味合いもあった。

スピーカーは、床の間の天井から下の方へ30センチほど垂れ下がっている小壁「落とし掛け」に取り付けることにした。この部分は、石膏ボードなので加工はしやすい。穴開け用と小さいノコギリの2つの工具で円をくり貫ける。

取り付けるスピーカーは3つ。シンメントリーナーによる位置を測り、3つの円を描く。まずは真ん中の円の中心に穴あけ用のノコギリを入れ、切る。うん! 固い、切れない、穴が貫通しない。壁の中に添え木の間に使われており、花や掛け軸を飾る場所となつたわけである。

この家は、父の要望で設計されたものではなく、亡くなった祖父の要望でつくったこともあり、伝統的な木造住宅になつた。そのため、洋楽好きの父は、正直、昔風の床の間の起源は諸説ある。奈良時代から始まつたようでは、格式のある人が上座に座ることを示していた。しかし、現代では客間に使われており、花や掛け軸を飾る場所ともある。



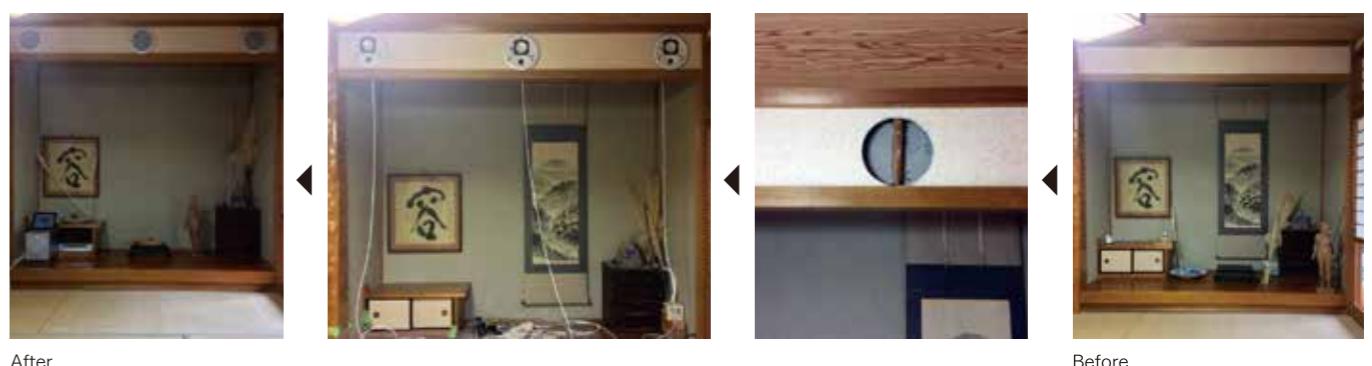
立体的な
音響表現をお楽しみ
いただける5.1chサラウンドシステム。設置スペースをとらない
埋め込み型なのでインテリアにもシンプルに馴染みます。

[製品情報]
オンキヨー
天井埋め込みスピーカー ICS-20
5.1ch BASEシステム BASE-SW77V(S)

さて、音源はiPadの中に入っているマイピーカーのウーファーは、床の間の左下にある小さい襖がついた地袋部分に設置した。スピーカーの配線は「落とし掛け」の裏側に隠せたが、左側の床柱の下部はコンセントの位置なども邪魔して配線が出てしまつた。次回は、完全に隠せるよう、床下の中を這わせようと思う。

くり貫いた円にスピーカーをはめ込み、配線。音を増幅するAVアンプと低音用スピーカーのウーファーは、床の間の左下にある小さい襖がついた地袋部分に設置した。スピーカーの配線は「落とし掛け」の裏側に隠せたが、左側の床柱の下部はコンセントの位置なども邪魔して配線が出てしまつた。次回は、完全に隠せるよう、床下の中を這わせようと思う。

ミュージック。オンキヨーのAVアンプには、テレビ、CDプレイヤーなどの機器が複数接続できるが、今回はiPadのみ接続。スピーカーをオンにして、音を鳴らす。まずは、父が好きなアバの「Dancing Queen」。iPadから直接出る音はどうしてもシャカシャカ音に聞こえてしまうが、その数十倍、いや100倍ぐらいいい音が出る。田舎なので、かなりの大音量で聞く。隣近所が離れているので、迷惑にならないのだ。これは都会では味わえない贅沢だ。次いで、カーペンターズ、サイモン&ガーファンクル、ボブ・マーリイチ子をオンにして、音を鳴らす。まずは、父が好きなアバの「Dancing Queen」。iPadから直接出る音はどうしてもシャカシャカ音に聞こえてしまうが、その数十倍、いや100倍ぐらいいい音が出る。田舎なので、かなりの大音量で聞く。隣近所が離れているので、迷惑にならないのだ。これは都会では味わえない贅沢だ。次いで、カーペンターズ、サイモン&ガーファンクル、ボブ・マーリイチ子をオンにして、音を鳴らす。



After

Before